

ICTの未来とNTTグループの役割

これからのICTの姿

現在のウェブブラウザの原型にあたる「モザイク」が登場したのは1993年である。それから丁度20年が経過した現在、ウェブを中心とするIP通信サービスは企業活動に必要な不可欠なものになり、個人の生活にも広く浸透してきている。

だが電気・水道・ガス・電話・放送・公共交通などのシンプルなサービスと比較すると、現在のインターネットはこれらインフラサービスとは使いやすさの面でまだ隔たりがある。ルータや端末の初期設定など、使い始めるまでのハードルに加えて、使い始めてからの操作やセキュリティの管理、ソフトウェアの更新や機器同士の接続など、デバイスやOS、ネットワークの複雑さに利用者が振り回される面も多い。

これからのICTは、より利用者中心になっていくべきである。企業や個人に活力を与えるようなサービスが提供され、ビジネスの革新や新しいビジネスの創造、新たなライフスタイルの提案が行われることが、今後の社会をより活性化させるために必要なことである。そのためには、ネットワークやデバイスにとらわれることなく、主役である利用者としての企業や個人をサポートすることが望ましい。

また、サービスもインターネットによるインターネットのためのサービスだけでなく、社会的課題の解決に向かうようなサービスが今後はいっそう求められるだろう。教育、医療、エネルギー、行政など、多くの分野においてICTが活躍する余地は大きい。特にインフラをはじめとするネットワークの整備が進んでいる我が国では様々な分野でのサービスの普及、発展が期待されている。

NTTグループの取組み

NTTグループは企業や個人のお客様をつなぎ続け、支え続けるパートナーとして、また社会の要請に応える責務を持った企業体として、今後も多様なサービスを提供していく。そのために必要なのは、R&Dの強化、スピードアップ、そしてグローバル展開の加速化であると考えている。

新たなサービスの提供に技術革新が重要であることは言うまでもない。いつでも安心してサービスを利用するためのセキュリティ関連技術、大量の利用者の要望を吸い上げて構造化するビッグデータ分析、使いやすいサービスやデバイスを実現するUI/UX関連技術（UI：ユーザインタフェース、UX：ユーザエクスペリエンス）、大容量のネットワークを効率的に構築する伝送技術や仮想化技術など、

推進しなければならない技術分野は広い。

セキュリティ関連では、クラウドのためのセキュリティ技術が今後非常に重要である。クラウド導入を検討している多くの方々の懸念はセキュリティに対する不安である。この不安を解消すべく、クラウド上のデータの盗難や消失からデータを保護する秘密分散基盤、データの操作や移動を調査・追跡するフォレンジックスなどの研究開発を進めている。

また、ビッグデータ分析では、絶え間なく流れてくる大量のデータに対応するリアルタイム分析基盤Jubatusや、自然言語処理技術などの研究開発に取り組んでいる。

一方、お客様企業のグローバルな活動を支えるサービスの拡大に合わせて、研究開発もグローバル展開を進めていく。まずは北米のR&D拠点において、クラウドサービスをターゲットとしてセキュリティ関連技術などのR&Dを拡充し、新たなサービスを育て、さらに、育てたサービスを新興国も含め、グローバルに展開していきたいと考えている。

産業とライフスタイルの変革に向けて

これまでのICTサービスの発展において、NTTグループがその過程で果たしてきた役割は決して小さくはなかったと自負している。フレッツ光は世界に先駆けて高速インターネット接続を低廉な料金で提供し、iモードは携帯電話の使われ方を大きく変えた。

これから迎える新たなステージでは、さらに大きな変化が訪れるだろう。「ネットとリアル」と並び称されるように、これまでのサービスは、ネットワークの向こう側にリアル社会とは別個の世界を築いてきた側面がある。しかし、これからはリアルの側がネットの影響を受け、ネットと融合することによって、大きく変化していくであろう。

その変化の主役は一般の企業、一般の人々であり、それら企業や人を活性化させ、支えるのが、NTTグループの使命である。インターネットの世界に起こったダイナミックな変化が、新たなステージではリアルな世界にも起こり、新たな産業、新たなライフスタイルが創造される。その変革を我々もお手伝いしていきたい。



日本電信電話株式会社
代表取締役副社長
片山 泰祥氏